



2017年8月10日

日本では初、 アウディがデイトタイムランニングライト（DRL）を全車標準装備

- 日中や薄暮時の歩行者や対向車への被視認性を向上し、安全な通行に貢献

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は、8月以降出荷モデルより順次、デイトタイムランニングライト（以下 DRL）を全車標準装備していきます。全モデルに標準装備するのは、日本ではアウディが初となります。

アウディは長年にわたって、自動車の照明技術の革新に取り組んできました。近年ではLED ヘッドライトに続き、マトリクス LED ヘッドライト、さらにレーザービームヘッドライト、OLED など、多様なライティング技術を実用化し、業界をリードしてきました。

DRL は長年多くの国で使用が義務付けられています。ドイツを含め EU 各国では 2011 年 2 月からすべての新型車に取り付けが義務化されており、アウディは DRL に関して既に長年の実績があります。

日本では 2016 年 10 月、国土交通省が国連欧州経済委員会（UNECE）の自動車基準調和世界フォーラム（WP29）で新たな国際基準が採択されたことを受け、車両保安基準を一部改正したことで DRL に関する基準を新設、DRL の装着を正式に認めました。

また、2020 年 4 月施行の新基準、オートライト搭載義務化では、走行中、一定の暗さになった場合、自動でライトが強制的に点灯し、ドライバーの意思で手動消灯することを不可としています。この新基準に先駆け、アウディ ジャパンは DRL を標準装備化する事で対応いたします。DRL は、イグニッションをオンにすると自動的に点灯します。昼間もヘッドライトを点灯することで、日中や薄暮時の歩行者や対向車への被視認性を向上し、安全な通行に役立てていきたいと考えています。また、アウディの DRL には LED を採用することで消費電力を抑えており、常時点灯であっても燃費に影響はありません。

このたび、8 月よりデリバリーされるモデルから順次、DRL を標準搭載しており、Audi Q2 から導入を始めています。革新的な技術で常に安全性や快適性を追求し、ライティング技術でも業界をリードするアウディの飽くなき姿勢は、これからも変わらず続きます。